

今日のわだい

- [1面] 第37回女性集会in福島
- [2面] 被災地を視察して
- [3面] 厚労省交渉・湖東病院開院
- [4面] 読者の声、新パズル

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷
0013 1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月20日 定価 30円
http://www.zenkouro.org/

被災地・福島原発の実情を見て感じて

～第37回全厚労女性集会in福島～

全厚労は6月13～14日、第37回女性集会を福島県いわき市の「スパリゾートハワイアンズ」にて開催し、16県150名が参加しました。3年以上経った今も復興・帰還できない被災地・被災者の実情を見て聞いて感じて、自分たち出来ることをやろうと話合いました。

主催者挨拶に立った茂原委員長は、大飯原発稼働差し止めを命じた福井地裁判決に触れ、「人を大事にする」「人格権」こそ最優先。医療・社会保障分野でも「人格権」守る立場で、男女が助け合って取り組みを進めていきたいと思います」と訴えました。

基調報告もかねて挨拶した折笠女性委員長は、「母性保護と女性の権利を学び行使する、いのちと性を大事にするのが女性委員会の活動です。女性性は平和を好むことが原点であり、出発点です。原発事故は収束しておらず、今も苦しみを続けている福島のことを知り、私たちに何が出来るか一緒に考えていく集会にしましょう」と呼びかけました。

人生が変わり、家族がバラバラにふるさとかえせ！と国・東電提訴

一つ目の特別報告として金井直子さん（福島原発避難者訴訟原告団事務局長）に、被災・避難者の一人として当時の様子や現状をお話いただきました。

震災が起きて4ヶ月後、自宅に帰った時、冷蔵庫の中のもののは腐り、家全体がかび臭さに覆われ、2時間までの滞在でも自宅に帰ったとは思えなかったことをしみじみ

現在被災地にはあらゆる所に除染廃棄物をまとめた仮置き場が存在します（写真下）。元々美しい自然にあがれて、福島町に移住したのですが、なおさら美しいと共存する真



2012年10月7日
大熊町の実家に一時帰宅、46.36マイクロシーベルト



2014年5月2日
楢葉町の除染廃棄物仮置き場
青い空と海、緑の山とのコントラストが痛々しい

つ黒なフレコンバックを見るとても悲しくなるそうです。仮設住宅住まいが辛いと中古住宅を買って住まれたらある避難者は元々の住民から様々な誹謗中傷などを受け、耐えられず家を売って出て行ってしまわれたそうです。いわき市民も被災者であるが故に、十分な補償が受けられないことで避難者に対して怒りが向いて被災者同士が分断されていきます。

「賠償金よりも家に帰りたい」というのが本音だけれども、元の暮らしに戻れるわけでもない、でも責任の所在をはっきりさせたいと原告団事務局長を引き受けたそうです。

原発事故を収束させるために 原発労働者の環境改善の運動を

渡辺博之さん（原発をなくすいわきの会・いわき市議会議員）は、原発作業員の劣悪な労働環境・労働条件の改善なしには事故の収束はできないと強く訴えられました。

ずさんな工事がなされている汚染水タンクのことや一歩間違えば大きな火災となりかねない消防法違反の給油作業、また「退職が被曝隠し」を迫られる線量計外しの実態など、人を使い捨てにしている実態を告発されました。そう

原発労働者の日当は6千円～1万5千円なのに対して、楢葉町等で除染作業にあたる労働者は1万5千4百円、東京で建設作業に従事する人はおよそ3万～3万5千円が水準とされる中で、人が集まりづらくなっているそうです。

今は原発労働者の健康や安全を守り賃金確保させるため、医療機関と連携しての健康相談、労働者応援ポスター、政府や東電との交渉の他、実態を伝えるDVDの普及などを行っています。国民からの応援が途絶えて現場の士気が下がっており、労働者を激励するために東電社員とも一点協力し、Jレレツジで果物配布しています。また表面上は敵対的関係にある東電社員も励まし、守ることも必要だと話されました。



写真を見せて話す金井さん

参加者の感想

●3年経過したけど…（涙）金井さんの話しに、なんともいえない重さ、凄さを感じる。現場に來ないと分からない。当事者の生の声を聞くことはよかったです。（岐阜）

●テレビでは実感できないことを体感できてよかったです。いろいろな情報が入ってくる、例えば、政府は復興していると言っていたが、現実は全く違うことに、現場を見させてもらって痛感した。復興のことは、日本全体で考えなければいけません。前に進まないことを感じた。（三重）

●汚染物を運搬するという景色が想像できない。とてもまだ先が見えてこない。ある大学教授が調査したところによると、ざっと30年かかるということを知った。とても気が遠くなることである。（茨城）

●ただただ恐怖を感じる。現場にいて感じて居た。写真で見るとは全然違う。被災地に來て感じることでできてよかったが、とてもいたたまれない気持ちになる。また、被災された方のことを考えると、心が重くなる。（静岡）

●今日の天気はとても暑い。気温は感じることもできるが、生活感を感じることができない。復興がすすんでいくことも想像できない。（香川）

当時を振り返って いま思う事

震災は、仕事中に起こった。テレビやパソコンなど倒れ、

壊れてしまい全く情報がない状況であった。物理的な危険処置をして、デイサービスの利用者さんを自宅まで送って行ったが、津波が去ったあとでありとても自宅には帰すことは出来なかった。震災後5日間は、デイの施設で利用者さんと過ごした。そして、原発での水素爆発があり、職員は各自対応することになった。そのため、職員は20名ほどから6名ほどになり、対応にも苦慮するようになり、また支援物資も徐々に少なくなり、とても強い不安を感じた。施設での対応が困難となってきたため、利用者さんを3カ所の避難施設に分け、少ない職員も分散して対応することになった。自分の自宅は津波の被害にあり、建物自体はあったが全壊レベルであった。1ヶ月後に避難が解除され、分散していた利用者さんも徐々に町に戻ってきましたが、急増した高齢者と減少した施設の中、被災した施設の定員を上回る入所希望者が殺到しました。財団の支援などをいいただき、新施設を建てることでできるとわかり、良かった。ただ、今もなお、職員不足によるところで完全に受け入れができていないわけではない。他の厚生連からの支援もいただいている状況。今回の現地視察を体感し、同じ被災地でも原発の影響があり家に帰ることができない悲しさを感じると、帰ってこれて良かったという思いも感じる複雑な心境である。また復興が進んでいない状況のなか差があることが分かり、また被災地へこのように人が来てくれて感じてもらえることができて良かったと思う。（福島）

今も3年前のまま 区域で分断された町

被災地視察ルポ

と感ぜられます。

広野ICに近づくにつれ、東電広野火力発電所が見られました。広野町は、2011年8月に政府が「緊急時避難準備区域」に指定、12年4月、避難指示が解除され町民の帰宅を促したが、人口の2割ほどしか戻っていない現状だそうです。

「除染の町」

本来は田んぼとして機能する土地が、除染廃棄物の仮置き場として活用されていて、町内の至るところに、フレコンバツクが山積みとされているのが見られました。最初

の頃の仮置き場のカバーは、3年間放置しており、劣化の恐れは十分に考えられるとのことでした。また、この放射能汚染物が置かれている奥には、民家があります(②)。



3 廃棄物と作業員

ガイドさんの線量計では、0.2325マイクロシーベルト。事故前は、0.04マイクロシーベルトであったとのこと。崩壊している手つかずの建物があちこちに見られました。

富岡町で降り、車外へ。 「富岡駅周囲」

バスを降りて、富岡駅まで数百mほど歩くと、その間も被災の跡を目の当たりにしました。横転したままの車もありました(④)。また震災時の



6 富岡駅ホームと慰霊碑

時に止まったままの時計も(⑤)。線路上には草が生い茂り、ホームであった一角に慰霊碑が建立されていました(⑥)。慰霊碑を建てた理由の一つに、マナーを守らず、駅や駅の奥の海沿いなどへ侵入し、記念撮影などする外部の人たちがいて、そのような人たちにも、この場所は津波で亡くなった人たちがいる場所であること認識してもらうためであると説明がありました。駅周辺には

富岡駅周辺の 新築分譲地

駅を後にして、バスへ乗り込み、富岡駅周辺の新築分譲地を見学しました。一見、建物自体は活用できそうなものもあるが、家があっても人が帰って来れるのかどうか。生活は避難所で過ごすしかない状況です。



9 新興住宅地だった所の家

津波のガレキ置き場も震災からほぼそのままの



8 車中からのガレキ置き場

設置された区域があり、その境目をバスで通過しました(⑩)。町は三分割されていて、「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」に分かれています。それにより、補償の金額も変わっており、それが町民同士のコミュニケーションの障害や軋轢となつていきます。

途中、線量計は、0.69マイクロシーベルトを示していました。バスの外は、もっと高いことが予想されます。

状況が続いており(⑧)、津波で被害にあった建物は、ほとんど新築でローンなどの問題がうかがえます(⑨)。

富岡町の 帰還困難区域

同じ町でも、道路の片側を境に、バリケードを

視察の最後に、ガイドの金井さんからは「宿泊したホテル(スパリゾートハイアンプ)と見学地域はさほど遠くない。それでも、復興している町とそうでない町との差は歴然であることがわかっていただけたと思う。



10 この先帰還困難区域



1 国道沿いの旅館



2 放射性汚染物と民家

道中、作業員の方々を見かけました。廃棄物の近くでふつうに会話をしていることに驚きました(③)。初めてのコンビニを見つけましたが、閑散としており、とても機能するとは考えられませんが、ガソリンスタンドなどはあいてますが、作業員用であり、生活者用ではありません。

富岡町へ入る 「東電第二原発立地町」



5 地震で止まったままの時計



4 横転したままの車



7 津波でやられたままの建物